

保育構想案

満3歳児(9月1日現在6名 12月は9名) 担任 河合 理沙

1. 活動名

誕生日をお祝いしよう

2. 子どもの姿と読み取り

- ・A児(4月生)とB児(5月生)は、担任の近くで過ごしながらか、自分のしたい遊びや好きなことに自分から取り組もうとするようになり、毎日顔を合わせる他児の保護者や園の職員・子どもなどに自分から手を振ったり、話しかけたりする姿も多く見られるようになっていいる。担任との関係を基盤に、身近な人や生き物、遊びや出来事など、自分の身の回りの環境に対して興味を広げ、自分から関わるようになっていいる。
- ・慣らし保育中のC児(7月生)は、担任が近くにいなくても一人で自分の興味のある遊びをしてみることが多かったが、だんだんと園生活のことがわかり始めると、自分の好きなものや興味を持ったことを見つけると、担任を誘って積極的にやってみたり、寂しくなったり怖さを感じたりすると抱っこを求めたりと、担任のそばにしようとするこことが増え、だんだんと担任に対して信頼を寄せるようになってきていいる。
- ・慣らし保育中のD児(8月生)は、他児がしていることなど周囲のできごとをじっと見て、気づいたことを担任に話したり、興味を持ったことを自分もやってみたりしている。その中で、やってみて気に入ったことは、翌日以降も自分から遊び出し、繰り返し楽しんでいる。また、意思表示は控えめだが自分の意思がしっかりとあり、担任の問いかけに対して行動に移したり、「うん」と首を振ったりして担任に伝えている。担任や身近な友達と過ごしながらか、周囲の環境を捉え、興味を広げつつある。
- ・9月から通園するE児(8月生)は、親子登園で毎回ままと遊びを楽しみ、母親だけでなく担任や他児の保護者にもご馳走を振る舞うなど、遊びの中で保護者以外の人との関わるようになっていいる。また、自分のマークや荷物の置き場、手洗い場などがわかり、保護者と一緒に簡単な身の回りのこもしている。
- ・9月から通園するF児(8月生)は、親子登園で興味を持った遊びをしてみたり、絵本の読み聞かせにも積極的に参加し、その中で気づいたことや問いかけに対する反応を伝えようとしてたりして、自分から周りの人や物事に関わろうとしていいる。8月末まで保育園に通園していることから、集団生活には慣れていいるが、環境の違いから戸惑うこも予想される。

3. 目指す子どもの姿

- ・保育者や友達の存在を感じながらか過ごすこを楽しむ。
- ・毎日一緒に過ごすクラスの友達に興味・関心を持ったり、簡単なやりとりを楽しんだりする。
- ・自分がしてもらって嬉しかったこを周りの人に対してしようとする。
- ・自分の誕生日を迎えるこを喜ぶとともに、まわりの身近な人から愛され、大切にされているこを感じる。

4. 活動の目標(ねらい)

〈誕生児〉

- 誕生会の意味を知る。(知識及び技能の基礎)
- 自分なりに誕生ケーキをデコレーションする。(思考力・判断力・表現力等の基礎)
- クラスの保育者や友達に祝ってもらうこを喜ぶ。(学びに向かう力・人間性等)

〈祝う側〉

- りす組の誕生会の流れがわかる。(知識及び技能の基礎)
- 自分がりす組の誕生会で祝ってもらったように、クラスの友達の誕生会に参加する。(思考力・判断力・表現力等の基礎)
- 喜んで誕生会に参加する。(学びに向かう力・人間性等)

5. 評価規準

知識及び技能の基礎	思考力・判断力・表現力等の基礎	学びに向かう力・人間性等
① 保育者に促されながら、誕生会の流れがわかっているか ② 誕生児は自分が祝われていることがわかっているか ③ 保育者や友達の真似をしながら、誕生児に「おめでとう」と言ったり、拍手をしたりしてお祝いしているか	① 誕生児に対して「おめでとう」の言葉や歌、拍手などでお祝いをしているか ② 自分なりにケーキのデコレーションをしているか	① 喜んで参加しているか ② ケーキを飾り付けたり、ろうそくの火を消したりすることを楽しんでいるか ③ 保育者や友達に祝ってもらうことを喜んでいるか

6. 環境構成

・活動内容の設定理由

誕生日という特別な日を保育者や友達に祝ってもらうことで、自分は大切にされているという感覚を感じて欲しい。また、入園直後の活動ということもあり、在園児にとっては誕生児（新入園児）の存在について意識する機会になるようにするとともに、誕生児にとっても保育者や他児と共に楽しく過ごす機会となるようにする。

・教材について

家庭でも誕生祝い等で食べる機会があるであろうケーキを用意することで、誕生祝いの会のイメージを持てるようにする。また、誕生児自身がデコレーションできるケーキにすることで、特別感を演出したり、祝われる人がわかりやすいようにする。

・展開の工夫

ケーキを囲んで、ろうそくの火を消したり、お茶などで乾杯したり、ケーキのデコレーションを食べ（真似）たりして誕生パーティーのような会にすることで、誕生日を祝っている雰囲気をもっと感じられるようにする。

7. ESD との関連

・活動を通して養いたい ESD の視点

相互性

・活動を通して主に育てたい ESD の資質能力

コミュニケーションを行う力

・ESD で育てたい価値観

人権・文化の尊重

幸福感に敏感になり、それを大切にする

・貢献できる SDGs

目標16平和

7. 展開

予想される子どもの活動	保育者の環境構成と援助
・水筒や、皿・スプーンなど（ままごとコーナーの玩具）を用意する。 ・自分のマークがついた椅子に座る。 誕生児は一番前に座る。（いわゆる“お誕生日席”）	・誕生会をすることを知らせ、楽しみにしながら必要なものを用意できるよう声をかける。 ・落ち着いて互いの姿を見ながら誕生会に参加できるように、テーブルを囲んで座るようにする。

<ul style="list-style-type: none"> ・誕生日がいちごやクリームに見立てたフェルトで誕生日ケーキのデコレーションをする。 ・他児はその様子を見る。 ・誕生日はろうそくの色を3色選ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・『ハッピーバースデートゥーユー』の曲を歌い、誕生日はろうそくの火を吹き消す。 <ul style="list-style-type: none"> ・デコレーションを皿に取り分けて、お茶での乾杯をしたり、ケーキを食べたりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・片付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生日に他児が注目できるように、また、誕生日が見守られていると感じられるように、その都度「いちご〇個並べてるよ」など、誕生日が飾る様子を言葉にする。 ・自分で好きな色を選ぶことで、特別感を感じたり、自分のことを自分で決めることができるようにする。 ・ろうそくの本数を1本ずつ数えながらケーキに挿し、「3歳」や「2歳からひとつ大きくなった」ことを意識できるようにする。 ・家庭でもなじみのあるであろう曲にすることで、参加しやすいようにする。 ・本物のろうそくにすることで特別感を演出する。 ・保育者が嬉しく楽しいという雰囲気を醸し出しながら歌ったり、「おめでとう」と伝えることで、楽しい場になるようにするとともに、他児のモデルにもなるようにする。 ・パーティーのようにみんなでケーキを食べたり乾杯したりすることで、全員にとって参加できる楽しい会になるようにする。
--	---

8. 実際の子どもの姿(12月の様子)



誕生日は慣らし保育中に他児の誕生日会に参加した経験から、することがより分かり、喜んで参加し、進んでデコレーションしていた。

誕生日がデコレーションする様子をじっと見ていたり、今までの経験から自分で気づいて、ままごとコーナーから皿や椀を持ってきて1人に1つずつ配る子どももいた。また、捕まえたバツタを自分の友達のように連れて遊んでいた子どもは、バツタもテーブルに連れてきて参加させていた。誕生日以外にも誕生日会が自分ごとになり、喜んで参加する姿があった。



慣らし保育中で、初めて誕生日会に参加する2人は、他児がままごとの皿などを用意する姿を見て、自分なりにままごとの食材や調理器具を選んできて参加するなど、自分なりに保育者の指示や周りの様子を見て行動していた。



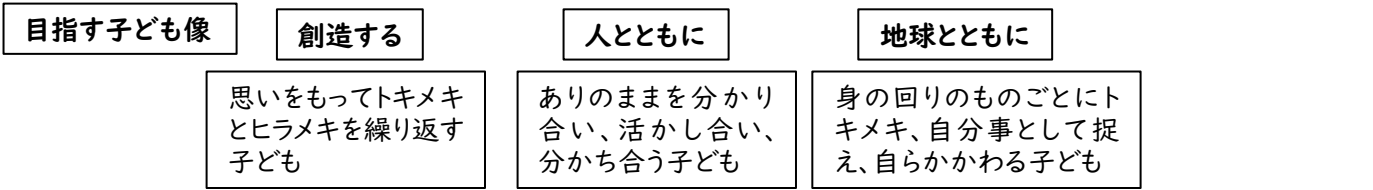
誕生日は、歌の間は照れ臭そうな表情を浮かべていたが、ろうそくを吹き消す時には張り切っていた。その後の表情もニコッと嬉しそうに笑っていた。誕生日のお祝いをしていることがわかり、喜びを感じているようだ。

取り分けの際は、「いちごが欲しい」「ピンクのクリーム」など、自分が欲しいものを保育者に伝えて選ぶ姿が増えた。活動に対して受け身ではなく、自分なりの思いを持つようになってきている。

7.成果と課題

低年齢児かつ、誕生日に順次入園してくる満3歳児クラスの特徴から、誕生日当日に誕生会をするようにした。一人一人の誕生会をすることで、それぞれが保育者やクラスの中で大切にされているように感じられたり、楽しい会にすることで、人とともに過ごすことが楽しいと感じられたりするように意識した。一人一人が自分や友達が大切にされていることを感じたり、楽しく意欲的に参加したりすることで、今後人と交わっていくことや様々なことに自分ごととして取り組むことの土台となっていくと考えている。

課題としては、低年齢のため一つの活動に様々な要素を取り入れることが難しいことがある。園生活全体で、人との交歓、自然との交歓、利他的行動を通して価値観を育てたり、行動変容を促したりしていきたい。



A 誕生会(12月9日)

〈誕生児〉○誕生会の意味を知る。(知識及び技能の基礎)
 ○自分なりに誕生ケーキをデコレーションする。(思考力・判断力・表現力等の基礎)
 ○クラスの保育者や友達に祝ってもらうことを喜ぶ。(学びに向かう力・人間性等)

〈祝う側〉○りす組の誕生会の流れがわかる。(知識及び技能の基礎)
 ○自分がりす組の誕生会で祝ってもらったように、クラスの友達の誕生会に参加する。(思考力・判断力・表現力等の基礎)
 ○喜んで誕生会に参加する。(学びに向かう力・人間性等)

ESDで重視する能力・態度が揺さぶられる子どもの姿(幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿)

○未来像を予測して計画を立てる力

・今までの“誕生会”の経験から、活動の流れがわかって参加する。
 (自立心)

○コミュニケーションを行う力

・担任保育者だけでなく、クラスの友達と集って、一緒に“誕生会”をすることを楽しむ。
 (協同性、豊かな感性と表現)

○進んで参加する態度

・“誕生会”に喜んで参加する。
 (協同性、社会生活との関わり)

○つながりを尊重する態度

・担任保育者だけでなく、クラスの友達と一緒に“誕生会”に参加することを楽しむ。
 (協同性、社会生活との関わり)

ねらい(11月中旬～)

○クラスの保育者や友達を感じながら一緒に過ごしたり、遊んだりする。
 ○自分のしたいことを存分に楽しんだり、保育者や友達のしていることを真似てやってみたりする。
 ○したいことを見つけて保育者と一緒に遊ぶ。(慣らし保育中のA児他)



保育者だけでなく、友達が数人いるからこそ楽しくなる遊びを繰り返し楽しむ姿が増えてきた。(坂下り、鬼ごっこなど)

保育者やクラスの友達と一緒に、同じ場で遊ぶことを楽しむ。

クラスで集う時間に喜んで参加する。

園生活の大まかな流れがわかるようになってくる。

何度もしている活動(誕生会や“お返事”など)のすることがわかる。



保育者との信頼関係を基盤に、特定の他児と一緒に遊ぼうとする子どももいる。



保育者との信頼関係や、安心できる場にいることで、自分から遊びに動き出すようになる。(慣らし保育児)

生活面のすることがわかるようになり、保育者の声かけにより行動に移そうとする姿が多い。



絵本の読み聞かせや、お返事をするなど、クラスで集う時間に気持ちを寄せる。